

千秀だより

横浜市立千秀小学校

3月号

平成26年(2014). 3. 3



感謝

校長 市川 幸 男

校庭に降り注ぐ陽光のもと咲き誇る梅の花や、膨らみ始めた木蓮やこぶしの芽に、春の訪れを色濃く感じる季節となりました。弥生3月、いよいよ年度のまとめの月となりました。子ども達も自分の一年を振り返り、残された課題解決に向け最後のスパートに入っているところです。

そんな折、雪のために日延べとなった千秀学習フェスティバルを2月21日(金)に開催いたしました。平日開催となりましたが、多くの保護者の方や地域の方にご来校いただき、子ども達の発表とその後の会話を楽しんでいただきました。子ども達にとっては多くの学びの場となりました。本当にありがとうございました。また、あいにく都合がつかず参観できなかった保護者の皆様には、今月の懇談会の折に映像などを伴ってご紹介して参りたいと存じます。よろしくご参加下さい。そんなフェスティバルの中、ある低学年の子どもが「校長先生、僕ね すごくなったんだよ。だって、コマ回しができるようになったし、嫌いだったにんじんも食べられるようになったよ。それにたし算だって、ひき算だってできるようになったんだよ。・・・」この後も次々と一年間でできるようになったことを語ってくれました。その成果を語る子の表情が本当に晴れやかで、嬉しくなると同時に、肩の荷が少し軽くなるのを感じました。学校の使命は当然のことながら子どもの心身の健全な成長を促すことです。先の言葉は少なくとも千秀小学校が、今年度この子に対して多少なりとも責任を果たすことができたことに他なりません。3月末には、この子以上に一年間の成果を、自信を持って語れる子をたくさんつくっていきたいと思っています。

とはいうものの、こういった子どもの成長は、学校職員だけで達成できるものではありません。保護者の皆様はもちろんのこと、多くの地域の方のご協力とご尽力があったからこそと感謝しています。今年も多くの皆様のお力添えをいただきました。

毎週水曜日の朝、チーム千秀「本の木」の皆様読み聞かせをしていただいています。10分間という限られた時間ではありますが、扉を開いた瞬間から、お母様方の優しい語り口調に乗り、多くの子どもが物語の世界にひたります。きっと子ども達は、一日豊かな心でいられると思います。チーム千秀の方には他にも、学校運営の中の随所にお力添えをいただいています。近いところでも、児童用机いすの足に付けるテニスボールの切り込み入れ。1階、階段前にある理科コーナーの展示、どれほど多くの子が手に取り、楽しんだことでしょうか。さらには、家庭科や書写の時間の指導補助、農業体験、ワックス塗りのお手伝い等々、数え上げたらきりが無い程の支援をいただいています。そのたびにこういった保護者の皆様の無償のご協力に、ただただ頭が下がるばかりです。

また、毎日の登下校の見守り、地区の安全パトロールなどありがたい話です。それぞれの地区で、危険な場所の確認と、当番を決めての立ち番も大変かと存じます。おかげで本年度一年間、交通事故もなく、安心して子ども達が登校できています。その中でも特に長尾台地区の花方様には、毎朝、バス乗り場前に立っていただき、安全な乗車にご協力いただいています。雨の日も雪の日も、暑い日も寒い日も、元気なお声を子ども達にかけていただき、感謝の言葉もございません。また、同様に金井地区には下校の際の安全の見守りにご協力いただいています。登下校を例に挙げても、こんなにも多くの方々に支えられている千秀小学校。他にも各町内での催しなどもふんだんにあり、この地域・保護者の温かさに包まれる子ども達は、本当に幸せと感じます。この幸せに甘えることなく、学校も一層努力し、皆様の期待に応えて参ります。今年度は3月25日で終了いたしますが、次年度も変わらずよろしくお願ひいたします。